

フリーダム

tiwaz8312

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

電波を受信すますた。

目次

フリーダム

1

フリーダム

己の出自やなんやかんやで絶望していたクルーゼは、たまたま立ち寄った裏日れた酒場に、なんとなく酒を煽りながら、この腐りきった世界をメチャクチャにしてやろうか？ 等と思考していた。

そんな時だった。隣に座り、真つ赤な顔で酒を煽っていた男が突然に、「男ならさく たつた一度の人生だろく 誰よりもフリーダムに生きなきやなく 人生はさ、長い。短い。じゃ、無いんだよなあく ドンだけの事をやるかだろうく ならさく フリーダム 生きなきやなあく」と、グダをまきはじめたのだ。

普段なら、酔っぱらいの戯言と切り捨てるが、酒により頭がパツピーになつていたクルーゼはその言葉に食いついてしまった。

そんな出来事から数日後。

ラウ・ル・クルーゼは全てをぶちまけた。世界に対して。

自分がどうやって産まれたのか等、知りうる限りの全てをぶちまけた。

ついでに、キラ・ヤマトの事も。

強制的に受信してしまう改造超強力電波で、何もかもをぶちまけた。

そして――

「私の人生は短い。故に、何者にも縛られずに生きる事をここに宣言する」

その一言と共にとても良い笑顔で――産まれたままの姿――全裸になり、ビッグマグナムをお茶の間に垂れ流ししながら様々なポーズ・ジングをとりはじめた。

「見るが良い!! コレが最上の造形美と言うものだ!」

そして、物語が動き出す――

「パトリック・ザラ議長! クレームがとてつもない量のクレームが!」

「今すぐあの変態を捕まえてこい!!」

「おい……ムウ……お前、大丈夫か?」

「頼む。今は、一人にしてくれ……」

「キラ。大丈夫だ。君がスーパーコーディネーターとか言う存在でも、僕達は友達だから」

「そうだ。スーパーコーディネーターだろうがなんだろうが、キラはキラだろう?」

「そうよ。スーパーコーディネーターとか、どうでも良いじゃない」

「本当にそうおもつてるなら、スーパーコーディネーター連呼を今すぐやめてくれえええ!!」

それから、時は流れ――

「ラウ・ル・クルーゼ!! お前のお前のせいでええええ!!」

「む、誰かと思えば、スーパーコーディネーターのキラ・ヤマトか」

「今すぐ、スーパーコーディネーター呼びをやめろ! お前のせいでどれだけ弄くられからかわれたと思ってるんだ! 何一つ悪い事してないのに、可哀想なものを見る目で見られる僕の気持ちがお前に分かるかああ!!」

「ふっ、私を討つために地球連合軍に入ったか…… 愚かな」

「お前が、お前が色んな所の裏事情を暴露し続けるからっ、世界が大変な事になってるんだ! 下らない理由で戦争が起きたんだ!!」

「言った筈だ。私はフリーダムに生きるとな」

「自由すぎるんだよ! この全裸変態!!」

これは、振りきれてしまった故に始まってしまった物語。